

【日本音楽表現学会第3回<アクアブルー>大会特集】

目 次

1. 巻頭言「社会生活に役立つ学問<音楽表現>」	森川 京子	2
2. アクアブルー大会を終えて	松下 允彦	3
3. アクアブルー大会：写真集		3~13
4. 総会報告		4
5. 『音楽表現学』の独自性	安田 香	9
6. 新入会員紹介		10
7. 会員によるコンサート案内		12
8. 会員のアウトプット		13
9. 日本音楽表現学会第4回大会のお知らせ		13
10. 学会からのお知らせ		14
11. 学会からのおねがい		15
12. 「入会申込書」書式		16
13. 「演奏会後援願」書式		16
14. 役員名簿・編集後記		16

日本音楽表現学会事務局 〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部 奥研究室気付

Tel. & Fax. 086-251-7647 E-mail: s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/ eeakita/kitayama/OHG-index.htm

郵便振込口座：番号01370=6=78225 音楽表現学会

銀行口座：三井住友銀行 (0009) 岡山支店 (651) 日本音楽表現学会 (普) 66394

日本音楽表現学会理事 森川 京子（ヴァイオリン）

「日本音楽表現学会第3回<アクアブルー>大会は実行委員長の松下允彦さんをはじめ静岡の実行委員会メンバーの皆様の大変なご努力と、会員の皆様の参加の下、のべ250名の参加を得て盛會に終えることができました。

さて、私が文部省在外研究員としてオーストリアのザルツブルグに滞在しておりました時、オーストリアの音楽教育において「表現」という言葉を大きく取り上げた「Die Welt in Farben Hören 色彩と聴覚の世界」という『指導書』が出版されました。従来の歌唱や理論が中心であった『指導書』から「表現力と創造力をつける」ということを目的とし、音楽と言葉・動きを結びつけることにより心の感動を表現したり創造する力を身につけ、社会生活の中で役立てようという方針へ重心を移したものです。その『指導書』の中で音楽教育の可能性は以下のように示唆されていました。

1. 固定観念に縛られない開放的な人間の育成に必要な社会性の基礎を与える。
2. 自らの感情を理解し表現することを学ぶことで、他人の感情も理解できるようにする。
3. 理論的な思考を刺激し、さらに競争力のある経済に必要とされる創造力を与える。
4. 歌うこと、聴くこと、動くことによって自らの身体に対して信頼を高め、人生の楽しみを与える。
5. 音楽を通して外国人や障害者との理解が可能であ

ることを教え、人間性を育てる。

6. 外国語の習得に必要な音楽的能力を培う。

自立心を早くから養い、学問そのものより人間形成における社会性を重要視することを根底とした教育方針の中で、音楽教育をより良い社会生活を営む上で必要条件とし、「音楽の表現」ができる者は「他方面のこともうまくできる」という理念の上に立ち、音楽教育を主要課目としたものでした。

このような『指導書』が「音楽の都」オーストリアでつくられたことに驚き、また「音楽の都」オーストリアだからこそなのかと考えさせられたことを思い出します。

今、日本では「芸術」にだんだん陽が当たらなくなってきているように思います。残念ながら表現（再現）芸術にかかわる者への業績評価も決して高いとはいえません。これらを黙って容認するのではなく、主張すべきは主張していかなければ良くはなっていないでしょう。音楽表現における専門的研究はもちろんのこと、社会生活における音楽の立場について話し合い、存在価値を高めていこうではありませんか。

第4回大会は2006年6月17-18日に岡山において開催されます。是非多数の皆様がご参加くださいますことを、そしてお目にかかれずことを楽しみにしております。

アクアブルー大会を終えて

大会実行委員長 松下 允彦

1年間の準備期間をかけて開催された「アクアブルー大会」が、成功裏に終わることができたことで胸をなで下ろしているというのが今の正直な感想です。

この日本音楽表現学会は、設立当初から「大いに発展するだろうな！」という予感がありました。多くの音楽家達から期待されていたと思います。その大会をお引き受け出来ることになり、大変嬉しく思ったものでした。

さて、わたしたち実行委員会（6名）は、昨年の「ライラック大会」という大変おしゃれなネーミングに対し、静岡大会になんと命名しようかというのが大きな関心事でした。そこには富士山、羽衣の松、山百合、茶、海や山などがのぼりましたが、「ライラック大会」のようなおしゃれな名前が浮かんできません。最終的には本大会のオープニング演奏のタイトル「空と海」から「アクアブルー」を想定しました。心残りなのは大会期間中、真っ青な空と海が見られなかったことでしょう。

大会の内容はわたしたちが想定していた以上のものでした。ギニャールさんの基調講演、実行委員会企画のシンポジウム、そして14の研究発表や、ワークショップ、パネルディスカッションと、大変豊富なものとなりました。そしてそのどれもが魅力的

だったので、皆様も発表会場を選ぶのに苦労されたのではないのでしょうか。また、参加者が予想より多かったために会場が狭すぎたり、大会要項や資料が足りなくなったというご意見を多数頂きました。大変ご迷惑をおかけいたしました。

今大会で最もスリリングなことが大会開催日直前になって起こりました。それは懇親会の参加申し込み者数と、懇親会費の納入者数に食い違いが見つかったことです。今回の懇親会がパーティー形式ではなかったために、参加者数の確認が出来ていないと大きな赤字につながる恐れがあったからです。しかし、結果的には関係者のご努力で、懇親会の申し込み者数と参加者をピッタリ一致させることができました。このような問題はあったものの、この形態での懇親会のおかげで、一人一人の会員のお話や特技が聞けて大変よかったと思っております。

アクアブルー大会実行委員会は先日反省会を開き、全て順調に事後処理が進み実行委員会散会のめどが立ったことが報告されました。これも中村会長、奥事務局長はじめ理事の皆さん会員各位のご協力、ご支援のおかげです。

来年の岡山大会、そして今後の音楽表現学会がますます発展することを祈って、お礼に代えさせていただきます。

日本音楽表現学会第3回<アクアブルー>大会総会報告

日 時：2005年7月2日（土）16:10～17:10

場 所：静岡コンベンションアーツセンター 交流ホール

出席者数：43名，委任状：57通， 合計：100名 2005年6月30日現在会員数：157名

記 録：森川 京子（理事）

1. 開会の辞：中村 隆夫（会長）
2. 議長選出：川本 洋一さんが選出された。
3. 報 告：「総会資料集」記載事項に基づいて，以下の順に報告され，すべて承認された。

1) 2004年度事業報告

- | | |
|-----------------------|--|
| (1) 第2回（ライラック）大会 | 2004年6月5日（土）6月6日（日）於：北海道教育大学札幌校 |
| (2) 理事会 | 第1回 2004年6月5日（土）於：北海道教育大学札幌校 |
| | 第2回以後 電子媒体による持ち回り会議 |
| (3) 編集委員会 | 第1回 2004年6月4日（札幌ガーデンパレス） |
| | 第2回 2004年7月25日（日）於：安田スタジオ（神戸市） |
| | 第3回 2004年8月30日（月）於：安田スタジオ（神戸市） |
| | その後 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等 |
| (4) 選挙管理委員会 | 役員選挙開票ならびに報告 5月6日 |
| (5) 学会誌『音楽表現学』No.2 発行 | 2004年11月30日（月） |
| (6) ニュースレター発行 | |
| ニュースレターNo.1 | 2004年7月31日（日） |
| ニュースレターNo.2 | 2004年12月10日（金） |
| ニュースレターNo.3 | 2005年3月10日（木） |
| (7) 名簿発行 | 2004年11月30日（火）現在 |
| (8) 会員によるコンサート後援 | 5件 |
| (9) その他・学術団体登録（申請中） | * 大会中に日本学術会議会長名で6月29日付「広報協力学術団体の指定」通知が事務局に届きました。 |
| ・協賛会員 | 『音楽表現学』継続購入希望大学・図書館等に対して相談中です。 |
| ・6月15日現在会員数 | 155名 |
-

2) 第2回(ライラック)大会決算報告

【収入】	費 目	金 額(円)	備 考
	大会参加費	196,000	4,000円×46名, 2,000円×6名
	広告費	300,000	
	合計	496,000	

【支出】	費 目	金 額(円)	備 考
	基調講演 謝礼	20,000	
	会場費	34,400	
	印刷費 プログラム・大会資料作成	129,150	
	振込手数料	420	
	人件費 当日アルバイト	30,000	15人
	昼食代	20,000	
	実行委員会会議費	6,000	
	交通費	10,000	
	通信費	12,430	広告主送料 2,000円を含む
	雑費	4,000	
	一般会計へ繰り入れ	229,000	
	合 計	496,000	

3) 2004年度会計報告・同監査報告

【収入】	費 目	予 算(円)	決 算 (円)	備 考
	2004年度学会費	620,000	505,000	/5,000×101名
			6,000	/3,000×2名
	2005年度以降 学会費		210,000	/5000×42名分
	学会誌売上		7,500	/1,500×5冊
	ライラック大会から繰り入れ	245,500	229,000	
	合 計	865,500	957,500	

【支出】	費 目	予 算(円)	決 算 (円)	備 考
	『音楽表現学』 印刷費	550,000	519,750	
			420	振込手数料
	用紙代	10,000	22,050	
			210	振込手数料
	理事会会議費	3,000	0	
	学会印		17,325	
	郵送料	150,000	73,380	
	編集委員会交通費	310,000	178,880	
			735	振込手数料
	(郵)振替用紙 印字代		1,100	
	(郵)会費振替手数料		6,260	/70×80名, /60×11名
	雑費	50,000	360	
	前年度からの繰り越し	183,771	183,771	
	小 計	1,256,771	1,004,241	
	次年度へ繰り越し	391,271	46,741	
	合 計	865,500	957,500	

上記の通り報告いたします。2005年5月25日

会計担当 柳井 修 印

上記の通り相違ありません。2005年5月25日

監 事 川口 容子 印
吉永 誠吾 印

4) その他 1) 事業報告「その他」の項参照

4. 協議 議案は説明を加えながら提案され、すべて承認された。

1) 「日本音楽表現学会会則」修正について

新	旧
<p>第三章 組織および運営</p> <p>第8条 本会に次の役員をおく。 会長 1名 副会長 2名(うち1名は事務局長) 理事 4名</p> <p>第10条 役員は、正会員の中から次の方法によって選出する。 (1) 会長は、<u>正会員の直接選挙</u>によって選出し、総会において報告する。 (2) <u>副会長および理事は、まず候補者6名を正会員の選挙によって選出する。次に、候補者の互選によって、内2名を副会長に、4名を理事に選出し、総会において報告する。</u> (3) 会計監事は、理事会が推薦し、総会において承認を得る。</p> <p>附則 3 2005年7月2日改正</p>	<p>第三章 組織および運営</p> <p>第8条 本会に次の役員をおく。 会長 1名 副会長 2名(うち1名は事務局長) 理事 <u>6名</u></p> <p>第10条 役員は、正会員の中から次の方法によって選出する。 (1) 会長は、<u>会員の直接選挙</u>によって選出し、総会において報告する。 (2) <u>副会長のうち1名は理事の互選で選出する。他の1名は、会長が会員の中から指名し、総会において承認を得る。</u> (3) <u>理事は、会員の中から選挙によって選出し、総会において報告する。</u> (4) 会計監事は、理事会が推薦し、総会において承認を得る。</p>

2) 「編集委員会規程」修正について

新	旧
<p>第3条 本委員会は、<u>6名の委員</u>をもって構成する。委員は、理事会が正会員の中から専門分野を考慮して推薦し、総会において承認を得る。</p> <p>附則 3. 2005年7月2日改正</p>	<p>第3条 本委員会は、<u>5名の委員</u>をもって構成する。委員は、理事会が正会員の中から専門分野を考慮して推薦し、総会において承認を得る。</p>

3) 「編集委員会内規」について 新規「編集委員会内規」を承認した。

1. 査読・編集の公平性を期すために、編集委員が『音楽表現学』に投稿した場合には、論文査読と採択の決定に関しては理事会構成員が代理を務める。理事会は、専門分野を考慮して代理者を推薦し、会長が委任する。
2. 代理者の数は、編集委員の半数を超えることはできない。編集委員の中で投稿希望者が半数を超える場合には、編集委員会内で協議の上、半数までに絞り込むものとする。

附則1. この内規は2005年4月1日から実施する。

4) 「選挙規程」修正について

新	旧
<p>1. 選挙方法は正会員の無記名投票による。</p> <p>附則 3. 2005年7月2日改正</p>	<p>1. 選挙方法は無記名投票による。</p>

5) 2005年度事業計画

-
1. 第3回(アクアブルー)大会 2005年7月2日(土)～3日(日)
於：静岡コンベンションアーツセンター(グランシップ)
2. 理事会 第1回 2005年6月18日(土) 於；岡山大教育学部学会事務局
第2回 2005年7月2日(土) 於；静岡県コンベンションアーツセンター
第3回以降 電子媒体による持ち回り会議
3. 編集委員会 第1回 2005年7月3日(日) 於；静岡県コンベンションアーツセンター
第2回 2005年8月中
第3回以降 電子媒体による持ち回り会議を適宜組み合わせる。
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.3 2005年11月30日発行
5. 選挙管理委員会 2006年2・3月中 回数未定
6. 2006-7年度理事選挙 2006年3月中
7. ニュースレター発行 No.1 2005年夏(アクアブルー大会特集号)
No.2 2005年秋
No.3 2006年春
8. 名簿発行 2005年秋
9. 会員によるコンサート後援
10. その他 ・会員，協賛会員拡大
-

6) 第3回<アクアブルー>大会予算

【収入】	費 目	金 額(円)	備 考
	大会参加費	270,000	4,000円×60名, 2,000円×15名
	広告費・ブース料	410,000	
	懇親会費	300,000	5,000円×60名
	合 計	980,000	

【支出】	費 目	金 額(円)	備 考
	基調講演 謝礼+交通費	100,000	
	会場費 (含・機材使用料)	56,000	
	印刷費 プログラム・大会資料作成	150,000	
	人件費 当日アルバイト+昼食代	40,000	
	実行委員会会議費	50,000	
	通信費	13,000	
	雑費	20,000	
	懇親会費	300,000	
	一般会計へ繰り入れ	251,000	
	合 計	980,000	

7) 2005年度予算 (2005年4月1日～2006年3月31日)

【収入】	費 目	金額(円)	備 考
	2005年度学会費(会員数160名)	650,000	5,000円×130名
	アクアブルー大会から繰り入れ	251,000	
	合計	901,000	

【支出】	費 目	金額(円)	備 考
	前年度からの繰り越し	46,741	
	印刷費	550,000	『音楽表現学』Vol.3
	理事会 会議費	3,000	
	交通費	45,000	
	編集委員会 会議費	10,000	
	交通費	150,000	
	選挙費用	40,000	用紙代, 封筒代, 送料, 会議費等
	送料	70,000	『音楽表現学』, ニュースレター等
	雑費	25,000	
	次年度への繰り越し	38,741	
	合 計	939,741	

8) 2005-6年度編集委員会委員

再 任	新 任
加藤富美子(音楽教育学) 北山 敦康(サクソフォン, 音楽教育学) 安田 香(ピアノ, 音楽学)	杉江 淑子(音楽教育学) 後藤 丹(作曲) 谷口 雄資(指揮)

9) 2005-6年度会計監事

川口 容子(京都教育大学)	若井 健司(香川大学)
---------------	-------------

10) 2005-6年度選挙管理委員会委員

阿部 祐治(兵庫教育大学 連合大学院学校教育学研究科)	小野 文子(中国短期大学)	長岡 功(岡山大学)
--------------------------------	---------------	------------

11) 第4回大会について 2006年6月に岡山で開催することに決定した。なお、その後、
6月17日(土)-18日(日)に岡山大学50周年会館で開催することに決定。

12) その他 なし

5. 閉会の辞: 中村 隆夫(会長)

『音楽表現学』の独自性

前編集委員長 安田 香

アクアブルー大会終了日の夕刻、今年度の第1回編集委員会が開催されました。実行委員会が用意してくださった部屋の窓に立つと、真正面に<グランシップ>の触先がありました。その光景は余りに象徴的で、鮮烈でした。この学会は大海原に帆を張って悠然と進む大きな船です。そのゆったりとした懐の深さが私は好きです。

第1期編集委員会では、「学会の独自性を体現する格調高いものを作りたい」との意気込みのもと、議論が沸騰しました。「独自性」とは、とりもなおさず上述の懐の深さです。音楽を愛する誰もが読んでみたい、投稿したいと思う機関誌が理想です。一方で、私は「音楽表現学」という語の持つ魅力に危惧を抱いていました。魅力は魔力と隣り合わせであり、魔力は胡散臭さと紙一重です。魔力は欲しいが胡散臭いのは困ります。温かいまなざしと厳しいまなざしを兼ね備えた文字通りの精鋭で委員会が構成されていたことは、ほんとうにありがたかったです。

こうして、書棚に並んでいれば（大会で会長もおっしゃったように）その魔力に手が伸び、中を開ければレイアウトに知性を感じ、読むと大胆な発想

や考察に惹きつけられる、そんな機関誌が誕生しました（自画自賛が過ぎるでしょうか）。既刊誌が「広報協力学術団体」の認定に資することができたのなら、ほんとうにうれしく思います。

「音楽を思索する」ことに深い意味を見出しつつも、研究内容に合致する刊行誌がなかった、という会員も多いのではないのでしょうか。勢い、論文投稿は初めてというケースも多くなりましょう。投稿される方は躊躇されるかもしれませんが、この学会誌には、「書き慣れた」論文よりも「熱い」論文が相応しいと思いますし、新しい研究を提示していただくことで編集委員会も育っていくのです。

今回任に当たって何よりも感動したのが、投稿いただいたどの原稿からも熱気が伝わってきたことです。そして、査読をお引き受けくださった会員の方々はそれに答えるべく誠意に満ちた報告を下さいました。また、印刷実務に関しての事務局のお働きにはいくら感謝してもしきれません。多くの方に支えていただいたことを幸せに思っております。

北山機関士（機関誌？）長のもと、クルーの一員としてまた働かせていただける光栄を思い、引き続き微力ながらがんばります。

新入会員紹介

今回のニューズレターでは、個人情報保護法の施行によって新入会員のみなさまに自己紹介をお願いしました。なお、大会当日に入会手続きをとられた方はちょっと遅くなりますが、ごめんなさい、次号で紹介いたします。

有田 昌代 さん

音楽療法士として、精神科病院などで主に高齢者と接しています。大学院では老年学を専攻しました。音楽療法では音楽がとても大切な要素となります。音楽そのものを改めて見直していきたいと思っています。

川端 美穂 さん

拓殖大学北海道短期大学保育科で発達心理学と教育方法を担当しています。音楽表現とは殆ど接点の無い人生を送ってきましたが、気が付けば「ミュージカル活動の人間力育成効果」という難題と向き合っていました。他分野の異分子ながら、どうぞ宜しくご指導下さい。

安藤 珠希 さん

東京芸術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻、同大学院音楽教育専攻を経て、現在、博士後期課程邦楽専攻に在籍しています。古典から五線譜で書かれた現代曲まで、様々な曲や多くの方々に出会えるのを楽しみに活動しています。

<http://www.h2.dion.ne.jp/~an-tama/>

近藤 晶子 さん

はじめまして。私は岡山大学大学院教育学研究科にて学んでおります。私の演奏楽器は、コンピュータです。演奏している姿は想像しがたいとは思いますが、まぎれもなく楽器です。人間味溢れるコンピュータ音楽表現、新しいコラボレーションを模索したいと思います。よろしくお願いいたします。

石原 慎司 さん

指揮、音楽学、音楽教育学、作曲と幅広い分野に活動領域が広がってしまった者です。指揮はマスタープレイヤーズ国際音楽コンクールに第3位に入賞し、論文等は学会誌に掲載済みと掲載予定のものがあります。因みに私は僻地高校の教諭で、この夏はNHK全国学校音楽コンクールに初挑戦します。

佐野 仁美 さん

佛教大学と滋賀女子短期大学で非常勤講師をしています。担当科目はピアノ指導、初等音楽科教育法などです。また、神戸大学大学院総合人科学研究科博士後期課程に在学して、「戦前の日本における近代フランス音楽の受容」というテーマで研究させていただいております。どうかよろしくお願いいたします。

大山 佐知子 さん

中国短期大学音楽科で、ピアノを教えています。家庭を持ち、働きながら、やはり演奏も精進していきたいと日々願っています。学生のクラブの世話をしたり、気忙しい毎日ですが、演奏は、心から伝わるように、より自然な演奏法をめざしています。「自然体」がモットーです。

田代 和久 さん

静岡の常葉学園大学教育学部で声楽を担当しています。音楽以外に興味はと聞かれても答えることの出来ない面白味のない人間ですが、よろしくお願いいたします。

長坂 由美 (鶴澤友球) さん

自然と人情と芸能の宝庫である淡路島に在住です。

小学校の講師をしながら、淡路人形浄瑠璃の伝承に関する研究をしています。また、研究を深めるために鶴澤友路師匠(人間国宝)の下で義太夫節を習い始めたはずが、今では

茂木 美和 さん

武蔵野音楽大学大学院博士後期課程に在籍、専門領域はハーブ演奏です。フランスの女流ハーピストH・ルニエが著した『ハーブ教程』の翻訳と研究をしています。日本では男性ハーピスト著の教則本が主流ですが、ルニエは女性で手が小さかったので、このメソッドは日本でのハーブ教育に有効だと思います。

原田 博之 さん

宮城教育大学で声楽と音楽教育を担当しています。昨年までは日本女子大学附属高等学校で生徒たちと音楽表現について熱く取り組み、演奏活動をし、心理カウンセラーとしても活動しておりました。これからは指導のみならず、己の音楽表現と更に向き合っていきたいです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

山崎 正 さん

常葉学園大学教育学部で作曲・音楽理論・音楽教育を担当しています。また、同列の短大で音楽療法も担当しています。これまでひたすら県内の128もの介護施設を足で周り、音楽療法の理解を得る努力をしてきましたが、この頃特に音楽表現の大切さを知的障害や特養等での実習を通して痛感させられています。

堀田 光 さん

鳴門教育大学大学院学校教育研究科でピアノを専攻しています。大阪出身ですが、鳴門に来てはや6年。もう第二の故郷です。穏やかな自然の中でのびのびと学生生活を送っています。これから、ピアノ演奏の技術と表現力の向上、研究においても頑張っていきたいです。若輩者ですが、よろしく願います。

吉田 秀晃 さん

熊本市に住み、ピアノのレッスンと演奏活動を通して、音楽表現を自分なりに研究しています。30を超えて、やっとピアノの素晴らしさが実感できるようになりました。



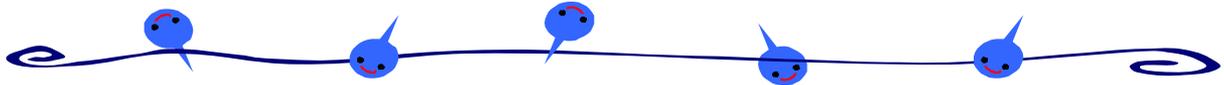
どの部屋も熱意ある聴衆でいっぱいでした。



ワークショップIX-C 山名敏之さんの「モーツァルトのヴァルターピアノ」をさわってみる参加者



会員によるコンサート案内

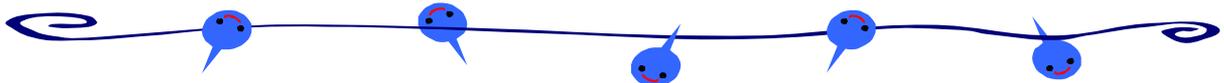


マリー・シェーファー作曲：Threnody 演奏会

- 【期日】2005年7月30日 16:00～ 18:00
【会場】エリザベト音楽大学セシリアホール
【出演】The Mount Pearl Show Choir, The Newfoundland Symphony Youth Orchestra, Se't A'newey First Nations Choir
【趣旨】被爆60年を記念して開かれるエリザベト音楽大学文化学科公開講座 = Threnody (挽歌) 平和教育プロジェクト = を日本音楽表現学会は後援します。

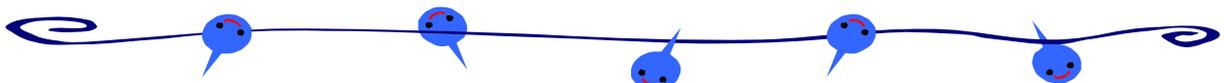
～ フランス音楽への旅 5 ～ 「フランスの舞曲」

- 【期日】2005年10月15日 15時開演
【会場】メルサホール(岐阜市)
【出演】大島晶子(pf), 市野啓子(千晶)(pf), 亀井良幸(cl), 安田香(pf), 山田貢(客演)(clavecin/pf) 他。
【趣旨】フランス音楽における舞曲の系譜を音で綴る
【曲目】クーブランの組曲(clavecin), ラモーのオペラアリア, アーンのサラバンド, 主題と変奏(cl), カッセルラのバルカローレとスケルツォ(fl), ラヴェルのラ・ヴァルス(コチシュ編), など



バッハへの愛を込めて 碓井貴美子ピアノリサイタル

- 【日時】：2005年10月8, 15, 22日(土)のいずれか
【場所】：福岡市 / あいれふホール
【趣旨】：小畑郁男, 中村滋延, 韓国釜山在住のパク・チュルホンの3人の作曲家が, 作曲にあたって I) バッハ作品の旋律モチーフ II) バッハ作品の音楽様式 III) B - A - C - Hの各音名のそれぞれをモチーフとする, といった多様なアプローチを模索する。
このコンサートは, バッハの音楽が21世紀においても, 時代と空間を越えて文化創造の刺激として大きな価値をもつことと, それを創造の源として現代の音楽技法を更新しうる事を示そうとする。福岡在住のピアニスト碓井貴美子が, 書下ろし作品を, 一夜のプログラムとして演奏し, 新たな音楽様式を模索する演奏会である。
【曲目】：中村滋延：[BACH]にもとづく鍵盤楽曲「Suite sur Bach no.1,no.2,no.3」《初演》
中村滋延：バッハ作品にもとづく鍵盤楽曲「Morphing BACH」 《初演》
小畑郁男：バッハ作品にもとづく鍵盤楽曲「BACH REMIX」《初演》
小畑郁男：[BACH]にもとづく鍵盤楽曲「プレリュード, コラールとフーガ」《初演》, 他





会員のアウトプット



野村 満男 著『古楽器研究2 Mozart ファミリーのクラヴィーア考え』

東京コレギウム ISBN4-924541-55-9 3500円

『古楽器研究3 チェンバロ クラヴィコード オリジナル楽器便覧上巻』

東京コレギウム ISBN4-924541-87-7 3000円

日本音楽表現学会第4回大会

音楽表現の可能性を岡山の地で探究

愛称募集中!



期 日：2006年6月17日（土）～18日（日）

会 場：岡山大学50周年記念会館

アクセス：新幹線岡山駅からバス10分
岡山空港からバス15分 大学筋下車

宿 泊：ご自分でお探してください。

実行委員会は、愛称を会員のみなさまからアイデアを募集します。

岡山といえば「桃太郎」「吉備団子」「白桃」「マスカット」「備前焼」それから・・・

岡山に関するあなたのイメージを愛称の形でご応募ください。8月31日（水）までお待ちします。

学会発展のために

現在会員数は157名です。これまで学会は徐々に堅実に大きくなってきました。日本学会会議による「広報協力学術団体」の指定も受けることができました。しかし、私たちの学会を充実させ、発展させるためには、一人でも多くの学会員の存在が必要です。まだ学会のことを知らない人、ぜひ入ってもらいたい人に勧めていただき、この学会を一日でも早く200名を越す『大きな学会』に育てたいと思います。みなさんのご協力をお願いします。入会申込書の書式を最終頁に掲載します。

学 会 か ら の お 知 ら せ

日本学術会議から「広報協力学術団体」の指定

6月29日付で日本学術会議長、黒川 清氏より「広報協力学術団体」としての指定通知が届きました。発足後3年目で学術団体の仲間入りを果たしたことになります。

このことによって学会のホームページは北山敦靖会員の個人ページから学術会議のホームページへとアドレスを移すことになります。北山会員には発足当初からいろいろお世話になりました。ありがとうございました。なお、移動の手続きが済むまでまだしばらくの間よろしくお願いたします。

会員のみなさまには、研究業績の提出が求められた場合には、学会誌のISSN番号「1348-9038」をご記入ください。また、学界における評価について問い合わせがあれば「日本学術会議の広報協力学術団体」とお答えください。

なお、指定の申請時には、機関誌『音楽表現学』はまだVol.1しか発行していませんでした。11月末のVol.3発行を待って、今度は学術団体登録の申請をする予定です。

郵政公社から「学術刊行物」の指定

7月13日付で『音楽表現学』は郵便法による「学術刊行物」の指定を受けました。これにより、『音楽表現学』の郵送料がメール便より軽減できることになります。指定の申請時には『音楽表現学』Vol.1とVol.2を提出しています。このような形で研究誌としての価値が広く認められていくことは学会の発展にとって大きな意味を持ちます。『音楽表現学』に応募していただいた学会員のみなさま、なによりも刊行に心血を注いでいただいた編集委員のみなさまに感謝の拍手を送りたいと思います。ありがとうございました。

学会は会員の音楽活動・研究活動をサポートします。

研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。

大会の口頭発表は、音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけで伝えられない音声をうい、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。アクアブルー大会では、口頭発表のこのような長所を生かして、ご自身の音楽表現の実践をワークショップで披露し、その適用性を問う議論がいくつか繰り広げられました。まさに音楽表現学会ならではの発表です。

ニューズレター「会員の声」は、会員の日頃の想い、印象の交流の場です。様々な専門分野の様々な立場の会員に原稿執筆をお願いしています。今回は特集のためにスペースをとることができませんでした。

ニューズレター「会員によるコンサートのご案内」では、各種の演奏、ワークショップ、イベントなどの活動紹介を行います。これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動を、ニューズレター最終頁の「後援願」の様式で、どしどしお寄せ下さい。

「会員のアウトプット」では、刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。

学 会 か ら の お ね が い

学会費納入

学会は会員の学会費によって運営されています。会計年度は毎年4月に始まって、翌年3月に終わります。発足後間もないこの学会で会費納入が滞ると活動に大きく響きます。2004年度、2005年度会費未納の方は、ニュースレター最終ページに記載された口座へ送金をおねがいいたします。なお、年会費を毎年送金する時間のゆとりのない方は、複数年度分を一度にお納めいただくのも一つの方法かと思えます。よろしくおねがいいたします。

2005年度会員名簿の刊行について

これまで会員名簿には、氏名、専門分野、勤務先、連絡先、電話・ファックス番号、メールアドレスを掲載してきました。しかし、個人情報保護法によって、すべてを掲載することができなくなります。会員相互の交流を深めることと情報限定の狭間で、事務局では今後名簿発行をどのような形で行うべきか、検討しています。今回一つの試みとして、新入会員の紹介を自己紹介の形で行いました。みなさま、いかがでしたでしょうか？ この形で「go」サインが得られれば、会員名簿にこの方法を踏襲して、レイアウトを160人～200人体制に対応できるよう工夫したいと思えます。ご意見をメールでお聞かせください。

2006-7年度会長・理事選挙について

今年度末には、2006-7年度を引き受けていただく会長と理事の選挙が予定されています。前回のように郵送による選挙を行いますと、莫大な経費がかかります。そこで、理事会では電子投票の導入を検討しています。選挙管理委員会と連携しながら、公明でミスのない選挙方法を模索しています。また、本選挙の前に予備実験をして確実さと電子投票に対する会員の信頼感を得たいと考えています。この分野に詳しい方は、是非お知恵をお貸しください。お寄せいただいたお知恵は、理事会と選挙管理委員会で検討の上、次回のニュースレターで周知をはかりたいと思えます。10月31日（月）までにメールで事務局までお願いします。

日本音楽表現学会入会申込書
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。

氏 名： _____
専門分野： _____
住 所： _____
所 属： _____
(会員名簿に住所を記載しない場合の)
連絡先： _____
連絡先電話番号： _____
連絡先Fax.番号： _____
e-mail アドレス： _____
推薦者名(学会員・1名) _____
音楽表現学会に期待されること。ご意見等：

* 学会費：正会員 5,000円，学生会員 3,000円

郵便振込：口座番号 01370=6=78225 音楽表現学会

銀行口座：三井住友銀行(0009)岡山支店(651)日本音楽表現学会(普)6639449

コンサート等後援願い
日本音楽表現学会の後援をお願いします。

氏 名： _____
所 属： _____
コンサート等の名称： _____
コンサート等の趣旨： _____
主な内容： _____
期 日： _____
会 場： _____
連 絡 先： _____

日本音楽表現学会 役員

会 長：中村隆夫
副 会 長：草下 實，奥 忍
理 事：安藤政輝，小西潤子，
森川京子，柳井 修，
会計監事：川口容子，若井健治
編集委員：北山敦康，杉江淑子
加藤富美子，後藤 丹，
谷口雄資，安田 香

編 集 後 記

大盛会だったアクアブルー大会。2日目の開会間際，松下委員長から「『大会要項』が足りない」と聞き，受付に駆けつけてみると，廊下は参加の受付をする人で通行不能でした。目が点になり，心が凍り付いた瞬間です。参加者数だけでなく内容についても回を追うごとに学会の成長が感じられます。特に今回は，静岡大学関係者によるシンポジウムが含まれ，多彩で華やかな大会になりました。やむを得ず欠席された会員の方々に，そのような雰囲気がこのニューズレターで少しでも伝わればうれしく思います。実行委員会と安藤理事から送られてきた写真のなかにはまだまだすばらしい映像があります。紙数の関係ですべてをお見せできないのが残念です。(奥 忍)